

第2回山口県地震・津波防災対策検討委員会の議事概要

1 日 時 令和6年8月19日(月) 14:00~16:20

2 場 所 山口県庁 本館棟4階 共用第4会議室

3 出席者 検討委員会委員(14名出席、2名欠席)

4 議 事

① 令和6年能登半島地震を踏まえた防災対策の方向性について

② 南海トラフ・周防灘断層群地震津波被害想定の見直しに係る業務計画について

5 主な委員意見

① 令和6年能登半島地震を踏まえた防災対策の方向性について

- ・国土交通省において、ソレーネ周南を防災道の駅に選定するなど、道の駅を防災に活用としようという動きがあるため、連携いただき、有効なネットワーク化をしていただきたい。
- ・山口県にはコンビナートなど製造業が多くあるため、特に沿岸地域の企業等については、BCP策定を進め、対策をたてていただきたい。

② 南海トラフ・周防灘断層群地震津波被害想定の見直しに係る業務計画について

<被害想定手法等について>

- ・地震発生時の想定シーンについて、帰省時や観光シーズンなど土地勘のない方がたくさんいるようなケースについても検討してほしい。
- ・熊本地震や能登半島地震では、断層が連動しているということがあったため、それらを考慮し、最新の知見を用いて想定していただきたい。
- ・火災における風速について、国の被害想定で採用されている風速毎秒8mで設定しているが、最大値で設定した方が、想定外がないのではないか。前回被害想定では、風速毎秒15mで設定している。
- ・地盤モデル、地震動計算のメッシュサイズについて、人口集中地区は細かく125mで、それ以外が250mということだが、山口県の地形は、小さな谷が多く、それぞれに古い家屋が密集しているという地域性があるため、それらを考慮したやり方ができないか。
- ・河川遡上について、前回被害想定では、河口幅30m以上の河川を対象としたが、データがなく計算ができないということがあった。対象河川については、今後検討が必要。
- ・避難開始までの時間について、東日本大震災では若い人の方が遅く、また高齢者でも元気な方と障害がある方とは異なる。

<業務計画等について>

- 前回被害想定では、市町単位で結果のとりまとめが行われた。同じ市町の中でも、地域により特性が異なるため、市町毎ではなく、地域で分けてまとめる等の工夫が必要。
- 今回の業務で収集するデータについて、GISデータなどデジタル化し、今後、大学や市町等においても活用できるようにしてほしい。
- 理想的な状況（耐震化、早期避難）を仮定し、どれくらい被害が減少されるか等のシミュレーションができれば、分かりやすく、それがそのまま次の防災計画に繋がると思う。
- 要配慮者という言葉が出てくるが「要配慮者」という言葉の定義を、もう少し明確にしてほしい。